

船舶事故等調査報告書

平成21年10月1日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009長第71号	
事故等種類	運航阻害	
発生日時	平成21年6月1日 14時40分ごろ	
発生場所	長崎県長崎市 肥前端島灯台から真方位070° 1,250m付近 (概位 北緯32° 37.86′ 東経129° 45.00′)	
事故等調査の経過	平成21年6月2日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 旅客船 マルページャ1、97トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 133091、やまさ海運株式会社</p> <p>乗組員等に関する情報 機関長、五級海技士（機関）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 主機関の燃料噴射ポンプのたわみ板固定ボルトが脱落して作動不良を起こしたもので、部品交換を行った</p>	
事故等の経過	<p>本船は、平成21年6月1日13時40分ごろ、軍艦島上陸クルーズのため長崎港大波止棧橋を出港し、軍艦島（端島）向け南進中、同日14時40分ごろ、中ノ島付近を航行中、突然、主機関の回転数が1,300rpmより1,200rpmに低下するとともに、排気管より白煙が発生したため、直ちに主機関回転数を微速前進の600rpmに減速し、停止したが、軍艦島まで5～10分程度の地点であったため微速前進で航行して同日14時50分ごろ、軍艦島ドルフィン棧橋に着棧した。</p> <p>その後、乗組員で船体、機関各部及び排気管の点検を実施したところ、燃料噴射ポンプに異状があるものと認め、主機関製造メーカーの技師から機関故障に関する整備指導を受け、指示に従い燃料噴射ポンプを復旧し、試運転を行ったところ、正常運転に戻ったため、乗客上陸見学後、乗客全員の乗船を確認して、16時00分ごろ、同棧橋を離棧した。途中無事航海し、16時30分ごろ、大中瀬戸付近を航行中、同種故障が再発したため、直ちに主機関回転数を微速前進の600rpmに落として進行し、17時40分ごろ、長崎港大波止棧橋に無事着棧した。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>主機関は、V型12気筒エンジンで、燃料噴射ポンプ2台がそれぞれ右6気筒、左6気筒に燃料を供給しているが、船首側1台の燃料噴射ポンプのたわみ板固定ボルトが経年劣化により脱落して、正常な燃料噴射ができなくなっていた可能性があると考えられる。</p>
原因	本インシデントは、本船が軍艦島に向けて航行中、船首側主機燃料噴射ポンプのたわみ板固定ボルトが、経年使用による老朽劣化により脱落した	

	ため、片側 6 気筒の燃料噴射時期が調整できなくなったことにより発生した可能性があると考えられる。
--	---